「日吉の思い出」（抜粋）　大平勉
終戦前後の日吉小学校時代
『日吉小学校開校80周年記念誌』掲載

（略）私の入学が終戦間近の昭和19年でありました。当時は子ども心にも戦争に負けるという感じがしませんでしたが、食糧不足、衣料その他の物資も全て不足、私たち低学年は授業半分、後の半分はタバコの代用としてイタドリの葉を採りに、よく川向かいの芝山さん、清井さんの家の近くまで採りに行き、集めたイタドリの葉を学校に持ち帰り、１つの教室を空けて乾燥室にして、当時としては珍しいトラックで持って行ったのをよく覚えている。

上級生は福山方面へ泊まりがけで松葉油を採りに行ったことも覚えている。

翌年は終戦。極端な食糧不足、物資不足、米など食べているものは誰もいなかった。主食は麦、小麦、エン麦、サツマイモ粉、それでも口に入れば良い方で、当時東京方面では毎日数百人の餓死者が出たように聞いています。

教科書も軍国主義から民主主義に変わったのであるから当然のこと、占領軍の命令でほとんどが墨で塗り消され、ほとんど読むところがないくらいであった。

また、学校自体が自給自足型で、越冬用に木を切り、こまかく割って石炭小屋に入れる（石炭小屋には石炭を入れるようになっていたが、入れる石炭がなかった）。焚き付けのための木の枝拾いに行く、ガンピの皮を集める、これはいずれも学校で自分たちが暖を採るためのものである。

夏は図書室の図書購入のために芋拾いで農家の手伝い、これは辛かったが勉強嫌いの自分は内心喜んでいたのかもしれない。

いずれにしても国全体が貧困であり、みんながそうであったからあまり気にならなかった。着ている物といったらいくつもツギのあたった服を着て、カバン代わりに風呂敷に教科書を包み、背中に背負って通ったものである。

当時は野球が盛んになり、もちろん市販されているグローブ、ミット、バットは買えないからみんな手作りである。シンボル的存在の大きな桂の木をバックネット代わりにして遊んだことを思い出します。運動会、学芸会、遠足など楽しかったこと、貧しい時代ではありましたが、それなりに自分たちで工夫して楽しく遊んだことがついこの間のような感じがして、苦しい時代であったにもかかわらず、当時を懐かしく思い出す今日であります。

（略）

＊注：野球に関して

＊年代特定はできないが、日吉尋常小学校で、初代校長（大正９年～11年）が野球を教えたとの記述あり（日吉小学校開校80周年記念誌）

＊戦後最初の記録は、昭和22年５月25日「午後、日吉小学校５・６年生と中学２・３年生とで野球の試合をする。グローブが足りず、外野は素手だ」

（日吉小60周年・日吉中20周年記念誌収録日記）